

図書室だより

<12月>

町民センター3階

今月のこの1冊

江戸を造った男

伊東 潤 著

伊勢の貧しい農家に生まれた河村屋七兵衛は、江戸に出て材木屋を営んでいた。しかし、明暦の江戸大火で息子とこれまで築いた資材の全てを失う。自宅の焼け跡に隠しておいたわずかな資金を元手に再出発を決意した。

いち早く木曾の材木を買い占めて莫大な資金を手にした七兵衛は、江戸再建のため幕府の公共事業に関わっていく。のちの河村瑞賢が日本列島の航路開設や治水・灌漑工事を成功させるまでを描いた一代記である。



みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場『クリスマス会』

内 容 「門松」づくりと「クリスマスのおはなし会」

日 時 12月17日(土) 10:00～

持ち物 はさみ

対 象 5歳～（未就学児は保護者同伴）

場 所 町民センター2階 小会議室A

申込み 直接図書室へ または、☎82-5221

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】

家族みんなで本を読もう！

【開室時間】 火～金曜日 10：00～20：30

土・日曜日 10：00～17：00

祝日23日 10：00～17：00

【休 室 日】 毎週月曜日 年末年始 12/28～1/4

※休室期間中は返却ポストをご利用いただけません ※貸出冊数は4冊まで、期限は2週間です

新しく購入した図書（主なもの）

● 一 般 書 ●

- ・ストロベリーライフ
- ・ヴァラエティ
- ・氷の轍
- ・駄犬道中おかげ参り
- ・デトロイト美術館の奇跡
- ・芝浜
- ・手のひらの京

荻原浩

奥田英朗

桜木紫乃

土橋章宏

原田マハ

山本一力

綿矢りさ

● 児 童 書 ●

- ・ねこまつりのしょうたいじょう
- ・またおこられてん
- ・つきよの3びき
- ・おおきいサンタとちいさいサンタ
- ・かあさんのまほうのかばん

いとうみく

小西貴士

たかどのほうこ

谷口智則

よこみちけいこ

◇おはなし会（第2土曜日、第3水曜日）

日 時 12月10日(土) 13:00～

12月14日(水) 15:00～

場 所 町民センター3階図書室

申込み 申込みはいりません

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にしています。

*文 芸

開成俳句会

俳 句

十一月吟

部屋千しの招き入れたる隙間風
子供より親の装う七五三
暮れ時のチャイムの寄する冬の畑
秋深む墨絵の如き屏風岩
帰り花凛と一輪敷の中
持て成しにためらいは無し帰り花
帰り花南半球旅したり
ゲートボールの迎へのバスや小六月
小春日の畑は私を呼んでいる
小春日や運転免許更新す
懸大根甲斐の景色を厚くして

波多野すみ枝

濱本 主雄

足立ふみえ

有賀 孝子

奥津ちわき

下澤 操子

瀬戸 悦子

遠藤シヅ子

遠藤マツエ

遠藤美津子

選者吟

ともしび短歌会

短 歌

十月詠

走り来て声の重なる小春かな

小春とは、十一月から十二月上旬頃の春のような穏やかな日を言いたい冬の季語である。掲句だが、誰が来た、何をしているとも言っていない。上五・中七は読み手が想像すれば良い事である。これが俳句なのである。俳句とは事柄を説明するのではない。読み手の為には隙間が必要であり余韻に繋がるのである。

近藤 正臣 選

近隣のあの家この家独居世帯

家族制度は死語となりぬか

昨今の世相を裁断した歌。今やどの地域も家庭でも核家族の増加、否、独居世帯が顕在化し、「家族制度」は、死語を呈している状況と指摘。抜本的な見直しが必要との作者の声をここに見る。

※家族制度は社会制度によって規定される家族形態。狭義では戸主が家族を統率し家督相続によりその地位を継承していく制度。

冬晴れのハングライダー山の背に

ゆったり浮かび空にとけこむ

辻岡 洋子

ハングライダーの優雅な飛行振りを捉えた歌。冬晴れで山の稜線がくつきりと見える中、数機が、ゆったりと高く舞い、空と一体となっている有様を描写。誰もが憧れ、羨望の的といえる光景。

ユニークなノーベル賞の報道に

旅での体験思ひて笑まふ

諸星 未子

今年のイグノーベル賞の「知覚賞」は、「股のぞき」。作者は、この報を聞き、「天橋立」での体験を思い出し、微笑したと詠んだ。本研究は、「股下から覗くと物が小さく見える」を理論検証した。

※ユニークなノーベル賞イグノーベル賞。この賞は「見おかしな印象を与える研究、社会に大きな影響を与えた人、企業などに皮肉を込めて与えられる賞」。10部門ある。

※天橋立は京都府北部、宮津湾にある。全長約3.3km。白砂青松の景勝地で、松島宮島とともに日本三景の「北岸の成相山、松島公園からの眺望はここによい。」（歌枕）

開成町のいまむかし<9>

この町に住んで100年目の方も、100日目の方も、皆さんで確かめる開成町の「いま」と「むかし」。このコーナーでは、12回にわたり、文化財保護委員とともに町のいまむかしをたどります。

問 教育総務課 ☎82-5221

開成町の「七福神」

大黒様などの七福神ではなく、ご利益がはつきりしていて、開成町で長く信仰されてきた七人の福神様を紹介します。

①安産の神

吉田神社境内の上島道祖神。以前はご神体を妊婦の家にお迎えして安産を祈願。円通寺観音堂も妊婦用の腹帯を保管している安産のお堂です。

②防火の神

榎本大長寺北、下島旧児童館前の秋葉山碑。静岡県浜松市の秋葉山は火伏せの神が住む山とされ、防火の秋葉山として各地で信仰されています。

③平和を招く神

中家村のお山王さん。山王とは比叡山を守る日枝神社（滋賀県大津市）の別名。平和を招く

神として国会議事堂裏の日枝神社やここ中家村など、南関東で特に信仰されています。

④トイレの神

宮台老人憩いの家前「ハニヤスヒメ神」の碑。地元ではオシッコの神として信仰されています。なお夫ハニヤスヒコは大便の神で、夫婦で役割分担しています。

⑤学問の神

酒田神社。神社の十一人の祭神の中に、学問の神菅原道真公が祭られています。

⑥みちひらきの神

上延沢自治会館南100mの猿田彦神の碑。この神は神々の先頭で天から国土に降り立った神で、すべてを良い方向に導く神とされています。

⑦五欲の神

金井島公民館前の天社神の碑。天社神とは人々が持つ五欲（財欲、名欲、色欲、食欲、睡眠欲）を程よく満たしてくれる神で第六天とも言う。同名の山が金井島の対岸にあります。

以上、それぞれの福神様に心を寄せれば、やさしく見守ってくださることでしょう。

幸運を引きよせ、よいお年を。

文化財保護委員会 井上 東亜

生き生きレポート



園に戻ってからけん玉に夢中



瀬戸屋敷で昔あそび

年長親子遠足
（瀬戸屋敷ふれあい体験）

開成幼稚園教諭

稲葉 千枝

10月末、年長親子遠足（瀬戸屋敷親子ふれあい体験）で瀬戸屋敷に行きました。瀬戸屋敷の各部屋で、昔遊び（けん玉・お手玉・かるたおはじきなど）に挑戦しました。どれも、日頃から園で取り組んでいる遊びですが、古民家で行ったことで、子どもたちの意欲がより高まっていました。

子どもたちは、保護者が見守る中、「できたー」と嬉しさを伝えながら楽しそうに取り組んでいました。遠足の最後は、全員『蔵』に集まり、けん玉やお手玉を親子で披露しました。

お昼ご飯には、町内産の新米をかまどで炊いたご飯と子どもたちが丸めた団子で作る郷土料理の団子汁を皆でお腹いっぱい食べました。遠足を通して、友だちや保護者の方々と楽しさを共有し、繋がりを深める体験となりました。